

常潤の誉れ

鹿児島県立加世田常潤高等学校



接ぎ木の技術を学ぶ生徒ら

県立加世田常潤高等学校の食農プロデュース科果樹班は四月十八日、J A南さつまの職員を迎え、果樹の接ぎ木講習と協同組合講座を受講しました。接ぎ木講習では、J Aの上舞拓也営農指導員が講師となり、同班の二、三年生十二人が、接ぎ木を実践し、接ぎ木の技術やポイントに関する指導を受けました。同校は、二〇一八年から南さつま市加世田の川畑地区が原産で古くから栽培されていた「川畑みかん」の

果樹の接ぎ木講習&協同組合講座

県立加世田常潤高等学校



復活に向けてプロジェクトを立ち上げ、行政やJ Aの協力のもと、栽培管理や技術習得、情報収集に取り組んでいます。また、J A総合対策部経営企画課の古木聡主任が「協同組合講座」と題して、J Aの概要や取り組み、地元の農畜産物などを説明しました。受講した岩田晴紀さんは「接ぎ木を実践してみないとわからないことが多く、指導のおかげで大変勉強になった。また、J Aが様々な事業に取り組んでいることに驚いた」と話しました。



協同組合について説明する古木主任